

## まちがいがさし

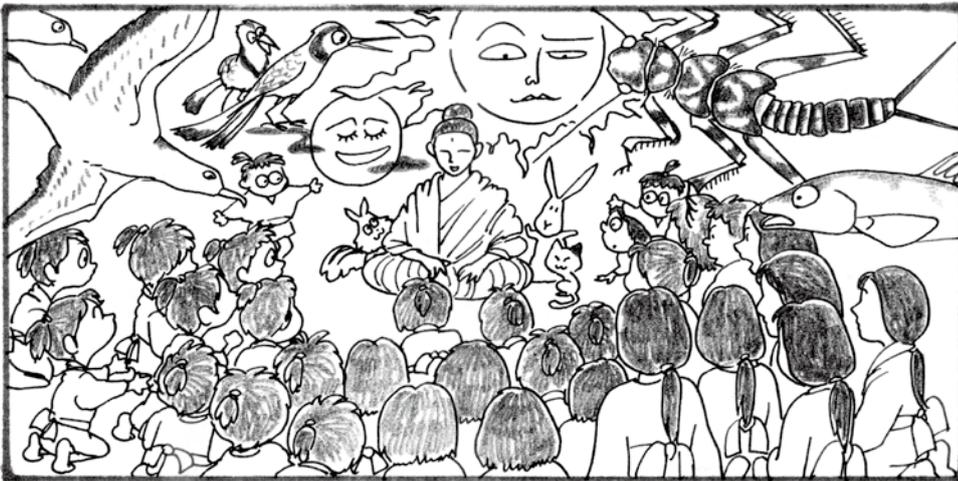
上下の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはラグーナの湯無料利用券をプレゼントします。

企画広報課 ☎66♦1145

### 応募方法

ハガキまたはファクスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて企画広報課(〒443-8601 FAX 66♦1190)へ。なお、当選者のお名前を広報がまごおり4月号に掲載しますので、ご承知ください。

とうふねこ座：市川雅子 画  応募締切 2月13日(金)



### ねじやかさん⑪

文：西島 諒

村人たちはみんな集まってきて、お釈迦さまのこれまでの旅の話や説法を輪になって聞いたんだと。「お釈迦さま、そんで海の先に何があるのかってえ、わかったの?」  
 子どもの1人が尋ねると、お釈迦さまはにっこりと笑って、一緒に聞いていた動物たちを見つめたんだわ。「リスさん、ウサギさん、子ネこさん」  
 「なんだい」「はい」「じゃっ」  
 「私は君たちと旅ができて、幸せだったと思う。私は、川の先、海の先に何があるのか、あまり期待していなかった。そこには陸があり、海が揺れ、どこまでも世界が続いているだけではないかと。だが、そうではなかった。流れる川には、石に隠れるカワゲラがいて、泳ぐ魚がいて、森で歌う鳥もいる。海を渡る鳥がいて、雲は流れ、太陽も月もどこでも違う顔を見せる。そこに住む人々の生活がそれぞれあり、同じ人、物などはひとつもない。そのすべてがこの世界にかけがえのないものだとながったのだ。海の先の先、そのもつと先にはなにかがあるのか。私が出した答えは、『なにもない。だけれども、すべてがある』私は、そう思えたことを心からうれしく思う」  
 真っ赤な夕日が沈み、陸までまっすくな揺れる赤いじゅうたんを伸ばしておった。  
 水平線に、漁船が何隻も見えてくるよ。  
 「船だ!」帰ってきた!  
 子どもたちが砂浜の先へ走り、大きく手を振っておったんじやと。  
 船乗りの中に、お釈迦さまが助けた子どもたちの父親もあってな、父親は話を聞くと、まず子どもたちの頭にげんこつをひとつ落として、それから何度も何度もお釈迦さまに深く頭を下げるもんじやから、さすがにお釈迦さまは声をかけたんだと。  
 「ここはご場所ですね」  
 「ああ、ここは冬でもあったけえし、海も山もいっぱい食わせてくれる。いいところさ。こつこついうバカがもつと気をつけられな」  
 そう言って子どもの頭をなでたんだと。

つづく



### ◆12月号の答え

- 12月号クイズまちがいがさし(ねじやかさん⑨)の当選者  
 応募総数72通  
 正解者48人  
 当選者(敬称略・50音順)  
 大塚町 石谷光子  
 竹谷町 市川祐介  
 八百富町 金田聡子  
 松原町 神田庄治  
 三谷町 佐藤 賢  
 三谷町 竹内裕子  
 三谷町 中野亮介  
 豊岡町 宮瀬あさみ  
 三谷町 山本眞理子  
 三谷北通 山本美菜実  
 おめでとうございませう。賞品は2月初旬に発送します。